



# そよ風



## 外来でできる抗がん剤治療をご存知ですか？ ～抗がん剤治療を外来で安全・確実・安楽に～

### 化学療法センターのご紹介

「抗がん剤治療(がん化学療法)」と聞くと皆さんは「入院をして受けないといけない治療」と思われていませんか？たしかに数年前までは、抗がん剤による“吐き気”、“白血球減少による感染”などへの対応が難しく、また長時間に及ぶ治療など多くの抗がん剤治療が入院したうえで行われていました。しかし、吐き気に対しては吐き気が起こる機序が随分解明されたことで、効果が高い吐き気止めが注射薬や内服薬で



チェアをご自分で楽な姿勢を調節できます。

開発され、また、白血球を増やす注射薬も使用することによって、外来で治療を行っても抗がん剤による副作用(吐き気や感染)に対応できるようになりました。同時に短時間で治療が終わり、これまでの抗がん剤と比べて副作用が軽くてすむ薬剤も開発されたことで、多くの抗がん剤治療は外来で安全にできるようになりました。外来で治療ができるということは、ご自宅で普段の生活を続けながら治療をできるといったメリットもあります。

当院では上記でご説明した外来での抗がん剤治療(毎月平均約300件)は、これまで各外来の診察室や処置室で行っていました。しかし、“ベッドが狭くて硬い”、“トイレが近くにない”、診察室と近いため“診察室の声が気になる”などのお声をいただき、「安全・確実・安楽」

に抗がん剤治療を受けていただけるよう、平成18年4月から外来抗がん剤治療を専門で行う部署「化学療法センター」を開設しました。治療は写真(左下)のようにテレビつきのリクライニングチェアで受けていただきます。患者様が治療を安全に安心して受けていただけるよう、各診療科の担当医と専任の看護師が治療に伴う副作用の対処方法などのご相談に応じています。また、薬剤の量、治療間隔の確認、抗がん剤の調製(抗がん剤を点滴ボトルの中に混ぜる)を専任の薬剤師が写真(右)のように専用の環境で行っています。その他にも社会保障・福祉制度のご相談には医療ソーシャルワーカー(医療相談員)が対応しています。このように当センターでは、様々な病院スタッフが患者様の外来治療を支えています。

### 理念

私たちは、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき市民の健康に寄与する質の高い医療を提供します。こころ豊かで信頼される医療人を育成します。医療の進歩にたゆまぬ努力を続けます。

### (大学病院のめざすところ) 基本方針

- ・患者本位の安全で質の高い医療を提供します
- ・地域医療の向上に寄与します
- ・健康・予防医学を推進します
- ・最新の高度医療を提供します
- ・人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・新しい診断法・治療法・予防医学の開発を行います
- ・質の高い多彩な研究を推進します



抗がん剤レジメンの調製は薬剤師が安全キャビネットで行っています。

## 認定看護師の役割 ～専門性を発揮した看護ケアの提供～

医療の高度化・専門分化が進む中で、看護部では、看護実践能力の向上に努め、より質の高い看護の提供を目指して、1999年から看護のエキスパートとして認定看護師の導入を行ってきました。認定看護師(Certified Expert Nurse)とは、日本看護協会の認定看護師審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる者で、現在全国で2474名が認定されています。看護現場における実践・指導・相談の3つの役割を果たし、看護ケアの質の向上を図ることに大きく貢献しています。特定の看護分野は、17分野に広がっており「認定看護師」の商標権を獲得しています。認定看護師は、ユニフォームの左襟元に認定のバッジ(下記写真ご参照)をつけておりますので御確認ください。

当院では高度な急性期医療を担っていくために、右記の6つの分野で7名の認定看護師が院内の各部門と連携をとりながら組織横断的な活動を行っています。

在院日数が短縮化されて、入院中から効果的で安全と安楽な看護を提供できるように、認定看護師は院内の相談に適切に対応し、院内ラウンドやセミナーを通してスタッフへの教育・指導等に当たっています。ま



認定看護師が付けているバッジのデザインは、「科学」「看護」「希望」などを意味する灯火＝光を月桂樹の葉で囲んだものです。ユニフォームの左襟につけています。

た、感染管理チーム(ICT)や褥瘡管理対策においても、専任としてチーム医療の中心的存在として活躍しており、チーム医療の充実に貢献しています。さらに、退院後の外来においても患者さまの看護ケアが継続して行えるように、ストーマ外来や化学療法センターで、患者さまの個別な相談に応じたり、医師や薬剤師等のコメディカルと連携を行い、専門性を発揮した看護ケアの提供を行っています。

### 1. 救急看護(1名)

ー迅速で確実な救急救命処置の看護

### 2. 創傷・オストミー・失禁(WOC)看護(2名)

ー創傷ケアや人工肛門・人工膀胱のストーマケア、褥瘡(床ずれ)および失禁(尿漏れ・便漏れ)に伴って生じる問題への看護

### 3. がん化学療法看護(1名)

ーがん患者さまの化学療法に関して、副作用対策などQOL向上をはじめとした全人的な看護

### 4. 感染管理(1名)

ー保健医療施設におけるすべての人を感染から守る活動

### 5. 重症集中ケア(1名)

ー重症かつ集中治療を必要とする患者さま及びご家族への看護

### 6. 糖尿病看護(1名)

ー長い療養経過をたどる糖尿病患者さまが運動・食事・薬剤治療など、セルフケアができるよう援助する看護

## 救急看護 認定看護師

医師と協力～救命に全力、早期の社会復帰をめざして～

私たちの病院は「三次救急医療施設」に指定されています。皆さまにはあまりなじみのない言葉かもしれませんが、たとえば“突然意識をなくして倒れた”あ



るいは“交通事故で大きなけがを負った”など、一般の病院では対応が困難な重症救急患者さまを受け入れる施設です。救急車が病院に到着して最初に治療を行う外来部門と、その後入院される救急病棟が、私の主な活動場所です。医師と協力して患者さまの救命に全力を尽くすとともに、少しでも早い社会復帰につながるよう、日常生活上のケアやリハビリテーションを行っています。また、突然生命を脅かすような出来事に出会う患者さまやそのご家族の不安を、少しでも和らげられるように努めています。

また、救急処置を他の職員へ指導することも認定看護師の役割です。市民の皆さまに安心して通院あるいは入院療養していただける病院をめざし、AED\*(自動体外式除細動器)の使用法や心肺蘇生法などの救命技術指導を年間通じて実施しています。1997年の救急看護認定看護師誕生から現在まで、全国で233名の看護師が認定看護師として活動を行っていますが、十分とはいえない人数であり、他の病院や教育機関からの依頼に応じて指導も行っています。

\*AED(Automated External Defibrillator:自動体外式除細動器)とは、突然死の原因となる不整脈を診断し心臓への電気ショックを行う器械であり、当院にも設置されています。

## 診療科紹介 循環器内科

循環器病態内科学(循環器内科)教授 よしやま みのる  
 葭山 稔

循環器内科は、第一内科に所属し、その他の第一内科としては、気管支喘息や肺がんなどの肺疾患を担当する呼吸器内科、膠原病などのアレルギー疾患を取り扱う膠原病内科に分かれて大学の診療にあたっています。

循環器内科としては、心筋梗塞、狭心症、心不全、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、高血圧、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症などの心臓・血管疾患に対応しています。また、救急患者に対しては、冠動脈疾患集中治療室をもち、24時間体制で心臓病救急にもあたっています。冠動脈の狭窄や閉塞を治療する冠動脈インターベンション術も24時間体制で積極的に行っています。また、心エコーを用いて心臓の形態および機能を短時間で正確に把握することが可能で、心

不全の原因診断や治療に多に役立っています。重症心不全に対しては、経皮的人工心肺の補助循環を用いて治療も行っています。核医学検査、心臓CTで狭心症・心筋梗塞などの冠動脈疾患の診断を行っています。不整脈に対しては、薬物療法のみならず、ペースメーカーの植え込みや心臓カテーテルによる治療も行っています。

循環器内科は広範囲に及ぶ疾患を対象にしますが、常に、一般内科医として全身を診るという姿勢を基本として、問診そして聴診などの身体的所見を正確にとるということを大事にして診察しています。いつでもお気軽に、かかりつけ医師や近くの医師とご相談の上、循環器内科を受診してください。お待ちしております。



## 診療科紹介 心臓血管外科

循環器外科学(心臓血管外科)助教授 佐々木 康之

Q. 心臓血管外科ではどのような疾患を扱っていますか？

A. 弁膜症、冠動脈疾患(狭心症・心筋梗塞)などの後天性心臓病、大動脈瘤や大動脈解離などの大動脈疾患、末梢動脈疾患、先天性心疾患といった広い範囲にわたり外科治療を行っています。弁膜症では大動脈弁や僧帽弁疾患に対する人工弁置換術・弁形成術が、冠動脈疾患では狭心症に対する冠動脈バイパス術が中心で、更には大動脈瘤(胸部・腹部)に対する人工血管置換術や下肢動脈の閉塞性動脈硬化症に対するバイパス手術を行っています。循環器内科との密接な連携のもと、安全で確実な手術を目指しています。

Q. 得意な手術はなんですか？

A. 冠動脈バイパス術と弁膜症手術を多く行っています。冠動脈バイパス術では高齢者や様々な合併症を伴う重症例には人工心肺を使用しない心拍動下冠動脈バイパスを行い良好な成

績を得ています。僧帽弁術では人工弁を使用しない弁形成術を積極的に行いほぼ全例で成功しています。手術が複雑である胸部大動脈瘤に対しても当科独自の工夫を行い、安全で確実な手術が可能となっています。腹部大動脈瘤では状況に応じて、開腹を行わないため負担の少ない「ステントグラフト治療」を放射線科と共同で行っています。

Q. どのように受診すればいいのですか？

A. 月曜から金曜日まで毎日、心臓血管外科外来で初診患者さんの受付をしています。紹介状のない場合でも遠慮無く受診していただければ、セカンドオピニオンを含め手術を迷っている方の相談にものらせていただきます。



## 病院ボランティアを募集しています!!

大阪市立大学医学部附属病院では、病院ボランティアを募集しています。

ボランティアの方々と医師・看護師・医療技術職員が協力し、患者さまが安心して治療が受けられる、より良い環境づくりに努めてまいりたいと考えています。

病院ボランティアとしての活動には、特別な資格は必要ありません。患者さまの役に立ちたいと思っておられる方であれば、どなたでも活動することができます。また活動時間につきましては、相談のうえ決めさせていただきます。

### ○活動内容○

- ・ 外来を中心とした患者さまへの院内案内
- ・ 車椅子をお使いの患者さまやお身体の不自由な患者さまの移動介助
- ・ 縫製作業(点滴着、ストーマ袋等の作成)

その他の活動内容につきましても、今後考えていきたいと思っております。

ご興味をお持ちいただきました方は、下記までお問合せください。

お問合せ先  
 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1-5-7  
 大阪市立大学医学部附属病院  
 庶務課: 忍(しのぶ)・松井  
 電話: 06-6645-2711 FAX: 06-6632-7114

### 患者様の権利

- ・ 安全で質の高い医療を受ける権利があります
- ・ 自由意志に基づき治療を選択する権利があります
- ・ 十分な説明と情報提供を受ける権利があります
- ・ セカンドオピニオンを希望される場合は、紹介を受ける権利があります
- ・ 人の尊厳を尊重した医療を受ける権利があります
- ・ 医療に関する個人情報やプライバシーが保護される権利があります
- ・ 健康教育を受ける権利があります

### 患者の皆様へのお願い

- ・ あなたの健康に関する情報は、できる限り正確にお伝えください
- ・ 病院スタッフの説明がわかりにくい場合は、納得できるまでお聞きください
- ・ 診療上必要な指示や助言は、お守りください
- ・ 他の患者様の権利を尊重し、迷惑がかかることのないようご配慮をお願いします
- ・ 治験・臨床試験に、ご協力をお願いします
- ・ 大学病院の責務である医療人の育成と研究に、ご理解とご協力をお願いします



## 大阪市立大学医学部附属病院の概要

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号 初診受付時間 午前9時～午前10時30分  
 電話 (06)6645-2121(代表) 休診日 土・日・祝日、12月29日～1月3日

### 診療科

総合診療センター、循環器内科、呼吸器内科、膠原病内科、生活習慣病・糖尿病センター、腎臓内科、骨・リウマチ内科、消化器内科、肝胆膵内科、小児科・新生児科、神経精神科、皮膚科、放射線科、放射線治療科、核医学科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、女性診療科(産婦人科)、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科・ペインクリニック科、形成外科、血液内科・造血細胞移植科、老年内科、神経内科

※本院は、専門医療を中心に医療を提供していますので、受診するには原則、診療情報提供書(紹介状)が必要です。

ただし、早期発見・早期治療の観点から一部の診療科では紹介状がなくても受診は可能です。

その場合は初診料とは別に2,620円(助産は2,500円)をお支払いいただきます。

